

壺井栄賞

あつたかべんとうをめしあがれ

小豆島町立苗羽小学校一年 森 海伊理

パパとおばあちゃんのしごとは、べんてんまるというおみせだ。べんてんまるでは、おこめやそうめんやおべんとうをうっている。

べんてんまるでは、いろいろなしゅるいのおべんとうをつくっている。どれもおいしくて、たべるとにっこりえがおになれるおべんとうばかり。そしてげん気いっぱいになれる。

ぼくのおすすめは、なんといつてもからあげべんとう。そとはカリッとっていて、一口かじると中はふわふわ。口の中はおいしいおにくのあじでいっぱいになる。一かいたべたら、またたべたくなってくる。

おべんとうをつくっているときのおばあちゃんは大きいそがし。いろいろな

しゅるいのおべんとうをつくっているからだ。ぼくは、ときどきよこから見ている。「おいしくなつてほしいな。」とこころの中でねがいながら。おばあ

ちゃんは、一どにいろいろなおかずをつくつて、たくさんならべたおべんとうばこの中に、パパッとおかずをつめていく。あつというまにおべんとうのできあがり。あんなにたくさんのおべんとうをどれもおいしそうにつくれるなんて、おばあちゃんの手はすごいなとおもう。それから、どんなにたくさんのおべんとうをつくっていると、おばあちゃんはニコニコしてたのしそうにしている。目はキラキラしている。おいしくたべてねという気もちでいっぱいなんだろうな。

おべんとうをはいたつするのは、パパ。しょうどしま中のいろいろなところにはいたつしている。パパが、

「かいり、いくか。」

ときいてくれたときは、ぼくもいっしょについていく。「よし、ぼくもパパみたいにならばつてはいたつするぞ。」と気あいを入れてしゅつぱつする。

はいたつにいったときには、ぼくにはだいたいなやくめがある。

「まいど、べんてんまるです。はいたつにきました。」

といって、でんぴょうをわたすことだ。そのあとで、パパはいつもとびきりのえがおでおきやくさんにおべんとうをわたしている。そのときの、パパの目は、おばあちゃんみたいにキラキラしている。

「ありがとう。」

と、おきやくさんはうれしそうにうけとつてくれる。そのしゅんかんが、ぼくはとてもうれしい。ぼくは、「きょうのおべんとうをたべるのはどんな人か

な。みんなでおいしいなといいながら、パクパクたべてくれるかな。」と、いつもかんがえている。たべているところをおもいうかべると、わくわくしてくる。

はいたつするときのパパは、いつもすこしだけはしる。どうしてだろう。すると、

「おべんとうをとどけるじかんをおきやくさんとやくそくしているからね。」

とおしえてくれた。おきやくさんは、おべんとうがとどくのをたのしみにまっているから、パパはいそいでいたんだ。それから、もう一つ、はいたつのことをおしえてくれた。

「おきやくさんがおべんとうをあけたとき、

『わあ！』とよろこんでくれるように、そうつとていねいにはこんでいるよ。」

べんてんまるのおべんとうは、おいしくたべてもらえるように、むきやいろをかんがえておかずをならべている。すこしだけはしるのは、やくそくのじ

かんをまもつて、できあがったときのままのおべんとうがとどけられるように気をつけているからだっただ。

パパは、おとしよりのところにもおべんとうをとどけている。一人ぐらしの人やごはんをつくるのが大へんだったりめんどうになったりしてきた人のためのおべんとうだ。

「きのうのおかずはさかなだったから、きょうはおにくにしようかな。」

など、えいようがかたよらないように、おばあちゃんやパパがどんなおかずにするかをそうだんしているそうだ。「しつかりたべて、げん気でいてね。」というおばあちゃんの気もちをこめたおべんとうをパパがとどけに行く。まい日とどける人、やくそくした日だけとどける人などいろいろだけれど、どのうちにもいったときにも、パパはとどけたおべんとうをちゃんとたべてくれてるかをとしかめているそうだ。たべてくれていたら、「げん気でよかった。」とほっとするみたい。このまえは、二日かんおべんとうをたべていない人がいて、ものすごくしんぱいになって、

べつのところにするかぞくの人にれんらくをしたこともあったとおしえてくれた。パパはおとしよりを見まもるといいうやくめもあつただな。パパのしごとはすごい。

べんてんまるのおべんとうは、たべてくれる人がげん気でしあわせな気もちになってほしいというおばあちゃんやパパの気もちがいつぱいつまっている。これからも、たくさんの人におべんとうをたべてもらいたいな。